

3 比爪—奥州藤原氏第二の拠点— ③ 外縁遺跡

《しよもっこ寺（新山寺）（紫波町土館字和山・松森）(1)》

近世初頭の盛岡城下建設に伴い、紫波郡から移転した寺院に「新山寺」があります。「新山寺」の旧所在地は、紫波町土館字和山の新山神社奥宮付近とする見解が主流です。新山神社奥宮は、~~新山神社奥宮は~~、新山の山頂(標高551m)の直下の標高517mの尾根の端部に位置します。奥宮付近からは12世紀の常滑産三筋壺や銅鏡が出土しており、「新山寺」の創建が12世紀にさかのぼり、奥宮付近が「新山寺」の寺域であることは妥当性があります。しかし、古代～中世の山岳寺院の立地や伽藍配置から推測すると、字域を奥宮付近に限定すべきではありません。

《《《 9～10月行事予定のお知らせ 》》》

◎ 諸般の都合により協力事業、比爪館歴史講座「はじめての比爪館さんぽ③」の期日・集合場所が変更になりましたので、ご注意ください。 9月3日(日)/現地 ⇒ 9月24日(日)/赤石公民館

9月20日 (水曜日)	第85回 月例発表会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：高橋敬明 テーマ：鎌倉時代の紫波 2 発表者：石幡 信 テーマ：陣が岡の武将たち
9月24日 (日曜日)	赤石公民館比爪館入門講座 はじめての 比爪館さんぽ ③ 【協力事業】	集合時刻 午前9時(終了予定：正午) 集合場所 紫波町日詰駅前 赤石公民館 実地見学 大銀Ⅱ遺跡発掘調査現場/北上川堤防 工事関連遺跡→城内遺跡等 参加費 100円(保険料他) ※ 詳細は赤石公民館676-3999へ
10月9日 (月曜日・祝日)	会員研修旅行 多賀城跡と 関連遺跡を巡る	集合時刻/午前8時(帰着予定午後5時) 集合場所/紫波町日詰駅前 赤石公民館 見学箇所/桃生城跡～多賀城跡(政庁・廃寺・石碑)～ 東北歴史博物館～松島海岸～伊治城跡 参加料/5,000円以内(昼食代・入館料等を含む) 募集人数/20名 ※20名未満のときは中止 参加申込/9月10日までにFax又はTelで高橋へ Fax 019-672-2382 Tel 090-3125-3776 ※ 詳細については、運営委員会で決定後、参加申込者に連絡します。
10月18日 (水曜日)	第86回 月例発表会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：(未定) テーマ：

☆☆☆ 会 員 募 集 ☆☆☆

若い方も年配者も、男性・女性どなたでも 初めての人でも大歓迎 —— 年会費 2,000円
加入申込書は、赤石公民館にあります。詳細は 019-3125-3776 (高橋) まで

比爪館跡 第30次発掘調査報告書 < 紫波町教育委員会(平成25年3月発行) >

【比爪館遺跡 第30次発掘調査(3)】 ～抜粋～

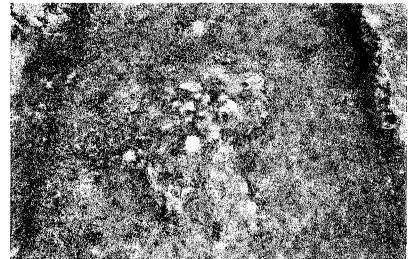
3 調査の成果 —(2)中世の遺構・(3)出土遺物 (省略)—

(4) 調査のまとめ③ (前号に続く)

【土坑跡】

土坑跡2基を検出した。形状は歪で、簡素な造りである。埋土堆積状況は、2層、3層に大別し、2基のA層から一辺が約1.5cm～約2.0cmと細かく割れたかわらけが大量に堆積し出土した。今回の調査でかわらけの胎土色は、灰白色から橙色を呈し3:7の比率で出土している。この土坑2基から出土したかわらけは、すべてがロクロ成形で胎土色は灰白色のみであった。

また、混入する砂粒の量が多く焼きの甘い脆い土器であった。この土坑跡は、最初は何かの目的で掘られたものだが、途中から土器の捨て場として使われたと思われる。



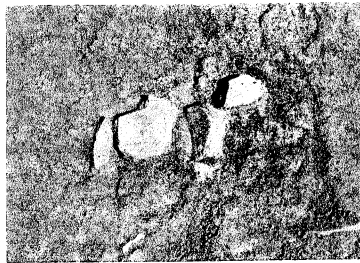
SK-180 土坑跡 遺物出土状況 (南から)

【池跡(推定)】

この遺構も以前住宅が建っていた所で、基礎跡や地盤改良等による攪乱でほとんどが壊され下層の2層しか検出できなかった。しかし、北側調査区断面は残存しており、幸いにも断面観測はできた。埋土堆積状況は自然堆積で、西側立ち上がり面に寺山明黄褐色土(粘土質)を貼り付けているのが観測できた。形状は上端が緩やかに南東に湾曲し、底面は西から東に徐々に緩やかに下がり池跡の可能性が考えられる。



SX-016 池跡(推定) 構築土、全景(北から)



SX-016 池跡(推定) 遺物出土状況①

また、埋土中には、多くのかかわらけが混入し、土壘状マウンド、土壘状遺構と全く同じ掘り込み面であることから同時期に構築された遺構と考えられる。しかし、ほとんどが東側調査区外に広がっており、詳細は不明である。

ミニ知識 — 研修旅行の目的地 多賀城・桃生城・伊治城

多賀城 (たがじょう/たがのき、多賀柵)

日本の古代城柵。国の特別史跡に指定されている。奈良時代から平安時代に陸奥国府や鎮守府が置かれ、11世紀中頃までの東北地方の政治・文化・軍事の中心地であった。

724年-創建。按察使大野東人が築城とされる。文献上の出現は「日本後記」の839年の記事。

780年-蝦夷出身で栗原郡長官の伊治皆麻呂の反乱で一時焼失した後に再建された。

802年-坂上田村麻呂が蝦夷討伐。戦線の移動に伴い鎮守府は胆沢城へ移され兵站機能に。

869年-貞観地震が起り被害を受ける。その後復興していくが、10世紀後半頃には次第に崩壊。

11世紀後半の前九年、後三年合戦においても、軍事拠点として機能。1097年-陸奥国府が焼失。南北朝時代には、陸奥守北畠顕家らが義良親王を奉じ多賀城に赴き、陸奥將軍府が誕生。

桃生城 (ものうじょう)

758年に造営を開始、760年に完成。「続日本書記」にみえる海道の蝦夷の攻撃を受け焼失した。

古代城柵。桃生城は8世紀後半の約15年で、その短い役割りを終えている。

伊治城 (いじじょう/いちじょう/これはりじょう/これはるじょう)

767年創建。宮城県内で文献(続日本書記)に創建年代が残る数少ない城柵のひとつ。780年に、按察使を殺害し、多賀城を占拠、略奪・放火した「伊治皆麻呂の乱」で知られる。